

2026年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年5月8日

上場会社名 株式会社 ホーブ
コード番号 1382 URL <https://hob.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長
配当支払開始予定日
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 0166-83-3555

(百万円未満切捨て)

1. 2026年6月期第3四半期の連結業績(2025年7月1日～2026年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期第3四半期	2,001	1.9	13	79.2	16	74.2	8	79.7
2025年6月期第3四半期	2,039	5.5	63	1.7	64	1.7	43	14.5

(注) 包括利益 2026年6月期第3四半期 8百万円 (79.7%) 2025年6月期第3四半期 43百万円 (14.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期第3四半期	11.48	
2025年6月期第3四半期	56.52	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年6月期第3四半期	1,047	726	69.4	954.29
2025年6月期	1,069	756	70.7	992.86

(参考) 自己資本 2026年6月期第3四半期 726百万円 2025年6月期 756百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期		0.00		50.00	50.00
2026年6月期		0.00			
2026年6月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年6月期の連結業績予想(2025年7月1日～2026年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,482	2.9	24	36.4	27	31.5	18	24.0	24.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年6月期3Q	762,000 株	2025年6月期	762,000 株
------------	-----------	----------	-----------

期末自己株式数

2026年6月期3Q	380 株	2025年6月期	351 株
------------	-------	----------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

2026年6月期3Q	761,626 株	2025年6月期3Q	761,382 株
------------	-----------	------------	-----------

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等は、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気に緩やかな回復基調が見られるものの、ウクライナ情勢の緊迫化が長期にわたっていることに加え中東情勢の動向も懸念される中で、世界的な資源価格の値上がり、物流コストの高騰や円安が大幅な物価上昇を招くなど、先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、自社品種「夏瑞／なつみずき」（品種登録名「ペチカほのか」）の生食用販売、業務用販売を中心に、いちご果実及びその他青果物の販売に注力してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,001,734千円（1.9%減少）、営業利益13,195千円（前年同期比79.2%減少）、経常利益16,720千円（前年同期比74.2%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益8,742千円（前年同期比79.7%減少）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(いちご果実・青果事業)

いちご果実・青果事業の主力商品は業務用いちご果実であります。当第3四半期連結累計期間においては、夏秋期は「夏瑞／なつみずき」（品種登録名「ペチカほのか」）、「コア」（品種登録名「ペチカエバー」）などの自社開発品種と輸入いちごを、その後は国産促成いちご（とちおとめ、紅ほっぺなど）を主に販売しております。

自社品種については、主力産地である北海道の夏（6～8月）の気温が過去最高となるなど、長期間にわたり高温の影響を受けることとなりました。国産他品種も同様の傾向で、高温によりいちご果実の出荷量が急にピークを迎えたほか、品質の低下も招く結果となりました。また、出荷ピークを終えてからは大幅に出荷量が減少し、8月から9月下旬までは十分な販売量を確保することができませんでした。出荷ピークを終えた後に早めに栽培株を休ませて成り疲れからの回復を促すなど、猛暑を想定した自社品種の栽培管理により9月下旬から出荷数量が増加したものの、それまでの減少分をカバーするには至りませんでした。12月のクリスマス時期にかけては、本州の厳しい残暑の影響で促成いちごの定植が遅れ、定植後の10月に曇天が続いたことでさらに生育が遅れが生じました。また、主力産地である栃木での大果系品種への切り替わりも重なり、11月からクリスマス時期にかけて業務用サイズの果実は全国的に品薄の状況が続きました。これにより十分な販売量を確保することができず、クリスマス時期の販売数量は前年同期を若干下回りました。

年明け以降の1～3月は、原材料価格の上昇や消費者の節約志向などを背景に、大手取引先を中心にいちご果実の取扱数量が前年同期に比べ減少することとなりました。

この結果、いちご果実・青果事業の売上高は1,771,547千円（前年同期比3.0%減少）、営業利益は113,229千円（前年同期比25.5%減少）となりました。

(種苗事業)

種苗事業は、自社いちご品種の「ペチカほのか」（商品名「夏瑞／なつみずき」）と「ペチカエバー」（商品名「コア」）の生産販売を主力としております。栽培方法には、秋に苗を定植し翌年春から秋にかけて果実を生産する秋定植と、春に苗を定植し夏から秋にかけて果実を生産する春定植の、概ね2体系の作型があります。当第3四半期連結会計期間においては、秋定植用苗の販売を終え、春定植用苗の販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、種苗の販売本数が増加したことに加え、栽培指導業務の受託による収益もあり、売上高、利益ともに増加いたしました。

この結果、種苗事業の売上高は43,790千円（前年同期比11.4%増加）、営業利益は15,803千円（前年同期比90.6%増加）となりました。

(馬鈴薯事業)

馬鈴薯事業は、主に種馬鈴薯の生産販売、仕入販売と、青果馬鈴薯の仕入販売からなります。主要売上品である種馬鈴薯には、秋から春にかけて販売する春作と夏に販売する秋作の2体系がありますが、そのメインは春作種馬鈴薯です。当第3四半期連結会計期間におきましては、主に春作種馬鈴薯の販売を行っております。

秋作向けにおいては種馬鈴薯の生産面積が減少したことに伴い、種馬鈴薯の供給が不足することとなり、販売数量が減少いたしました。春作向けにおいても、種馬鈴薯産地の高温や干ばつの影響で生産量が減少し、販売数量は前年同期を下回りました。仕入単価の上昇に伴い、販売単価を上げたことで売上高は前年同期を上回りました。しかしながら、仕入単価上昇分を十分に転嫁することができず、利益を確保することができませんでした。

この結果、馬鈴薯事業の売上高は73,950千円（前年同期比1.9%増加）、営業利益は1,938千円（前年同期比72.6%減少）となりました。

(運送事業)

運送事業は、株式会社エス・ロジスティックスが行っております。関東圏を中心とした事業展開で当社の商品配送を中核としつつ、一般荷主からの配送業務受託も行っております。当第3四半期連結累計期間におきましては、

受託業務の見直しを進めたことで、売上高は前年同期を上回りました。しかしながら、利益につきましては外注費の増加の影響もあり前年同期を下回りました。

この結果、運送事業の売上高は112,446千円（前年同期比10.6%増加）、営業利益は13,625千円（前年同期比22.0%減少）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

①財政状態の状況

（流動資産）

流動資産は、前連結会計年度末と比較して48,009千円減少し、当第3四半期連結会計期間末で888,557千円となりました。これは現金及び預金が増加したものの、売掛金が減少したことが主因であります。

（固定資産）

固定資産は、前連結会計年度末と比較して25,929千円増加し、当第3四半期連結会計期間末で159,053千円となりました。これは投資その他の資産が増加したことが主因であります。

（流動負債）

流動負債は、前連結会計年度末と比較して857千円増加し、当第3四半期連結会計期間末で159,373千円となりました。未払法人税等が減少したものの、賞与引当金が増加したことが主因であります。

（固定負債）

固定負債は、前連結会計年度末と比較し6,461千円増加し、当第3四半期連結会計期間末で161,427千円となりました。

（純資産）

純資産は、前連結会計年度末と比較して29,398千円減少し、当第3四半期連結会計期間末で726,809千円となりました。なお、自己資本比率は前連結会計年度末の70.7%から69.4%となっております。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2026年2月6日の「2026年6月期第2四半期決算短信」で公表いたしました予想数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	306,105	596,555
売掛金	577,796	233,666
棚卸資産	44,760	47,588
その他	7,960	10,768
貸倒引当金	△56	△21
流動資産合計	936,566	888,557
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	34,751	31,712
機械装置及び運搬具(純額)	19,321	20,839
土地	37,400	37,400
その他(純額)	1,568	1,687
有形固定資産合計	93,041	91,640
投資その他の資産		
その他	40,082	67,413
投資その他の資産合計	40,082	67,413
固定資産合計	133,124	159,053
資産合計	1,069,690	1,047,610
負債の部		
流動負債		
買掛金	91,811	90,946
1年内返済予定の長期借入金	4,016	1,019
未払法人税等	8,230	1,988
賞与引当金	-	5,730
その他	54,458	59,689
流動負債合計	158,516	159,373
固定負債		
退職給付に係る負債	49,644	52,729
役員退職慰労引当金	102,130	105,505
その他	3,192	3,193
固定負債合計	154,966	161,427
負債合計	313,482	320,801

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	421,250	421,250
資本剰余金	110,791	110,791
利益剰余金	224,626	195,285
自己株式	△459	△517
株主資本合計	756,207	726,809
純資産合計	756,207	726,809
負債純資産合計	1,069,690	1,047,610

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
売上高	2,039,483	2,001,734
売上原価	1,587,018	1,574,054
売上総利益	452,465	427,680
販売費及び一般管理費	389,033	414,485
営業利益	63,431	13,195
営業外収益		
受取利息	315	1,033
債務勘定整理益	105	1,476
その他	1,130	1,529
営業外収益合計	1,551	4,039
営業外費用		
支払利息	173	375
為替差損	—	139
営業外費用合計	173	514
経常利益	64,809	16,720
特別利益		
固定資産売却益	1,410	1,025
特別利益合計	1,410	1,025
税金等調整前四半期純利益	66,219	17,745
法人税等	23,169	9,003
四半期純利益	43,050	8,742
親会社株主に帰属する四半期純利益	43,050	8,742

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益	43,050	8,742
四半期包括利益	43,050	8,742
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	43,050	8,742
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	14,440千円	15,835千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2024年7月1日 至2025年3月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	いちご果 実・青果	種苗	馬鈴薯	運送			
売上高							
国内売上高	1,825,896	39,323	72,554	101,709	2,039,483	—	2,039,483
海外売上高	—	—	—	—	—	—	—
顧客との契約から生 じる収益	1,825,896	39,323	72,554	101,709	2,039,483	—	2,039,483
外部顧客への売上高	1,825,896	39,323	72,554	101,709	2,039,483	—	2,039,483
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	99,144	99,144	△99,144	—
計	1,825,896	39,323	72,554	200,853	2,138,627	△99,144	2,039,483
セグメント利益	152,087	8,290	7,076	17,463	184,917	△121,486	63,431

(注) 1. セグメント利益の調整額△121,486千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自2025年7月1日 至2026年3月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	いちご果 実・青果	種苗	馬鈴薯	運送			
売上高							
国内売上高	1,771,547	40,706	73,950	112,446	1,998,651	—	1,998,651
海外売上高	—	3,083	—	—	3,083	—	3,083
顧客との契約から生 じる収益	1,771,547	43,790	73,950	112,446	2,001,734	—	2,001,734
外部顧客への売上高	1,771,547	43,790	73,950	112,446	2,001,734	—	2,001,734
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	101,956	101,956	△101,956	—
計	1,771,547	43,790	73,950	214,402	2,103,690	△101,956	2,001,734
セグメント利益	113,229	15,803	1,938	13,625	144,597	△131,402	13,195

(注) 1. セグメント利益の調整額△131,402千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。